

令和 7 年 10 月 1 日

指名打者（DH=Designated Hitter）について 【公認野球規則 5.11】

日本高等学校野球連盟

1. 指名打者（DH）制度の背景と歴史

1973 年にアメリカ・メジャーリーグのアメリカンリーグで正式に導入されました。当時、打撃能力の乏しい投手が打席に立つことで試合の流れが停滞することが多く、観客の興味、関心を高めるためよりエキサイティングなゲームにしたいという課題がありました。特に、プロ野球では「攻撃的な試合展開」や「選手の専門性の向上」が求められており、DH制度はそのニーズに応えるものでした。

DH制度の導入によって、投手は投球に専念できるようになり、同時に打線には強打者を一人多く組み込むことが可能になりました。この制度は野球の戦略に大きな変化をもたらし、選手寿命の延長や、打撃に特化した選手の活躍の場の創出など、多くのメリットを生み出しました。

一方で、ナショナルリーグでは長らくこの制度は採用されず、投手が自ら打席に立つ形が続きましたが、2022 年からMLB 全体でDH制度が採用されました。

また、同年にはいわゆる「大谷ルール」と呼ばれる新ルールが追加され、先発投手が指名打者としても試合に出場し続けられる制度が設けられました。これは投打の二刀流選手である大谷翔平選手の存在が影響を与えたもので、野球の新たな潮流を象徴しています。

国内においては、東京六大学野球連盟と関西学生野球連盟が 2026 年シーズンから導入を決定しているのが現状である。

DH（指名打者）とは

本来、打席に立つはずの投手に代わって、打撃専門で出場する選手

2. 指名打者（DH）制度の目的

DH（指名打者）制度は、投手の打席に代わって打撃専門の選手を起用する制度です。高校野球での導入目的は、主に投手の負担軽減と選手の出場機会の創出にあります。野球の試合で最も体力を消耗する投手に対する負担軽減ならびに熱中症対策が期待できます。また、打撃が得意な選手が出場することで、これまで試合に出場機会が少なかった選手が試合へ出場できます。普段の練習の成果を発揮する場として公式戦への出場するチャンスが増加することは最も重要な点の一つです。

また、規則への理解が不十分な場合、守備交代や記録に混乱が生じる恐れもあります。円滑な運用には、規則の正しい理解と大会役員、指導者、選手、審判委員、記録員の連携が不可欠です。

3. 規則 5.11 (a) に基づく要点解説

(1) 試合開始前の申告が必須 【5.11(a)(1)】

DH制度を使用する場合、試合開始前にオーダー表に指名打者の指名と打順を明記し、本部、相手チームおよび審判委員に正確に申告する必要があります。

申告を怠ると、その試合ではDHを使用できません。

(2) 打順表に記載された指名打者の義務 【5.11(a)(2)】

試合開始前に交換された打順表に記載された指名打者は、相手チームの先発投手に対して、少なくとも1度は、打撃を完了しなければ交代はできません。（俗にいう「当て馬」はできない）ただし、その先発投手が交代したときは、その必要はありません。

(3) チームがDHを使用するか選択できる 【5.11(a)(3)】

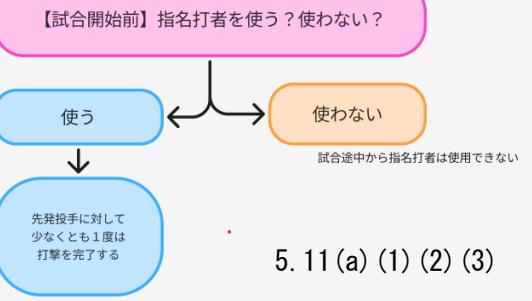
チームは必ずしも投手に代わる指名打者を指名しなくても構いませんが、試合途中から指名打者を使うことはできません。

(4) 指名打者に代打を送る 【5.11(a)(4)】

指名打者に代えて代打者を使うことは可能です。（例1）

指名打者に代打が出た場合、その代打者が新たな指名打者になります。

5.11(a)(1)(2)(3)



メンバー表A			
打順	位置	氏 名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	高橋	12
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		加藤	1

氏 名	背番号	学年
吉田	10	
山田	11	
佐々木	13	
山口	14	
松本	15	
井上	16	
大谷	17	
監督	コート	

例 1

(5) 指名打者を守備につかせる 【5.11(a)(5)】

指名打者を守備につかせることは可能です。

その際、DH消滅となり投手は退いた守備者の打順を受け継ぐ。（例2）

2人以上の交代が行われたときは、監督が、打撃順を指名しなければなりません。（関連事例：6章ケース①参照）

メンバー表A			
打順	位置	氏 名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	高橋	12
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		加藤	1

氏 名	背番号	学年
吉田	10	
山田	11	
佐々木	13	
山口	14	
松本	15	
井上	16	
大谷	17	
監督	コート	

例 2

(7) 投手が一度他の守備位置につく 【5.11(a)(8)】

投手が他の守備位置につくことは可能です。その場合指名打者の役割は消滅します。

(8) 代打者または代走者が試合に出て、そのまま投手になった場合 【5.11(a)(9)】

代打者または代走者が、そのまま投手になることは可能です。

その場合指名打者の役割は消滅する。

(9) 投手が指名打者の代打者または代走者になる 【5.11(a)(10)】

投手が指名打者の代打者または代走者になることは可能です。その場合指名打者の役割は消滅します。試合に出場している投手は、指名打者に代わってだけ打撃または走者になることができる。(関連事例：6章ケース②参照)

(10) 指名打者が守備位置につく 【5.11(a)(12)】

指名打者が守備位置につくことは可能です。その場合指名打者の役割は消滅します。

(11) 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になる 【5.11(a)(14)】

他の守備位置についていたプレーヤーが投手になることは可能です。その場合指名打者の役割は消滅します。

(12) 指名打者のブルペンでの行為 【5.11(a)(15)】

指名打者は基本的にベンチで試合に参加することが前提です。ただし、投手や捕手の交代準備のためにブルペンで練習を行うことは制限されていません。

DH消滅になるケース

① 投手が他の守備についていた場合	5.11(a)(8)
② 代打者または代走者が試合に出て、そのまま投手となった場合	5.11(a)(9)
③ 投手が指名打者の代打者または代走者になった場合	5.11(a)(10)
④ 指名打者が守備についていた場合	5.11(a)(12)
⑤ 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になった場合	5.11(a)(14)

4. 規則 5.11 (b) について 【「大谷ルール」とは何か】

規則 5.11 (b) いわゆる「大谷ルール」とは、先発投手自身を指名打者 (DH) として同時に出場させることを認める特例ルールで、2022 年からメジャーリーグ (MLB) で正式に採用されています。これは、投打の両方で高い能力を持つ大谷翔平選手の存在を背景に、投打の二刀流選手を戦力として最大限活用できるように整備されたものです。

従来のルールでは、投手が自ら打順に入る場合、DH 制は放棄され、試合中に投手を交代すれば、打順の入れ替えも必要になるなど、戦術上の制約がありました。しかし、大谷ルールでは、先発投手が DH を兼ねて試合に出場することができ、その後に投手を交代しても DH の打順は消滅せず、先発投手を引き続き打者として出場させることが可能です。

また、逆に途中で打者としての役割 (DH) を退いても、投手としてはそのまま続投することができます。つまり、投手としての出場と指名打者としての出場が独立して扱われ、どちらかを交代してもう一方に影響を与えないという柔軟な起用が可能になりました。

この制度により、二刀流選手をチーム戦術の中でより自由に活用できるようになります。

5. 11 (b)について

メンバー表B

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		大谷	17

1人の選手が「投手」にも「指名打者」にもなれる特別なルール

	氏名	背番号	学年
控え選手	加藤	1	
	吉田	10	
	高橋	12	
	佐々木	13	
	山口	14	
	松本	15	
	井上	16	
監督	ヨーチ		

【背景】

通常DH制度は、投手は守備専門。指名打者は攻撃専門。

しかし、投手でもバッティングが得意な選手がいる。

【目的】

- ・二刀流選手の活躍が広がる
- ・ファンにとっては魅力的な選手が試合に出場

ケース	結果	備考
大谷がP+DHで先発出場	○	
大谷がP+DHで先発出場 投手を退いた場合でも指名打者は継続	○	一度退いた役割に再度就くことはできない
大谷がP+DHで先発出場 指名打者を退いた場合でも投手は継続	○	一度退いた役割に再度就くことはできない
大谷が両方退いたあと、山口がP+DHで出場	✗	5. 11 (b) 後段
山口を投手に、井上をDHにする	○	

5. 高校野球で導入した場合、今後の課題・検討事項

(1) 都道府県高校野球連盟、加盟校、審判委員、記録員など関係者への規則の周知

高校野球に関わる全ての関係者への丁寧な周知が不可欠です。特に従来のDH制度との違いや、大谷ルールの適用条件など、混乱を避けるための具体的な説明や研修の実施が求められます。

(2) 記録方法の研修

記録では、従来の記録方式に加え、DHが登板・打撃両方をこなすケースや、途中からの役割変更があるため、記録員の方々への研修が必要になります。また、新たに公式戦で使用するスタメン表の作成や電子スコアの仕様変更も必要です。

(3) 審判委員への研修体制の整備

審判委員への研修と運用事例の共有が重要です。グラウンド上でチームが申し出た場合にスマートな対応を目指した研修機会を設ける必要があります。

6. ケーススタディ集

本章では、実際の試合で想定される具体的な事例を取り上げ、その適用や判断の根拠を整理します。DH制度は、投手交代や守備位置の変更などと複雑に絡み合うため、状況ごとに異なる解釈が必要となる場合があります。

今後、全国各地から寄せられる質問や事例についても隨時追記し、規則運用の統一を図る上での参考資料として位置づけます。

【掲載ケース一覧】

- ケース① 複数選手の交代があるとき
- ケース② 投手が打撃するかまたは走者になる場合
- ケース③ 臨時代走と指名打者
- ケース④ 自動的に投手交代になる場合
- ケース⑤ 同じ役割に再度就くことはできない

ケース① 複数選手の交代があるとき

(例)

3番DH高橋を「8」へ
1番佐藤を「9」へ
控え選手 吉田を「7」へ

メンバー表A			
打順	位置	氏名	背番号
1	9	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	高橋	12
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		加藤	1

	氏名	背番号	学年
控え選手	吉田	10	
	山田	11	
	佐々木	13	
	山口	14	
	松本	15	
	井上	16	
	大谷	17	
監督	コート		

DHが消滅する（DHが守備につく）

同時に複数の選手が交代となる

- ・ 加藤投手の打順が「6番」or「8番」かを指名する
- ・ その結果、吉田の打順が決まる

ケース② 投手が打撃するかまたは走者になる場合

投手が打撃するかまたは走者になる場合 (ケース②)

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	高橋	12
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		加藤	1

試合に出場中の投手が → 指名打者の代打または代走 → 可能
 → 指名打者以外の代打または代走 → 不可



ケース③ 臨時代走と指名打者

- ・パターンA (DHが投手を兼任していない場合)

メンバー表A

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	高橋	12
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		加藤	1

投手兼任でないDHは臨時代走者になる

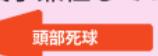


- ・パターンB (DHが投手を兼任している場合)

メンバー表B

打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		大谷	17

投手兼任しているDHは臨時代走者にならない

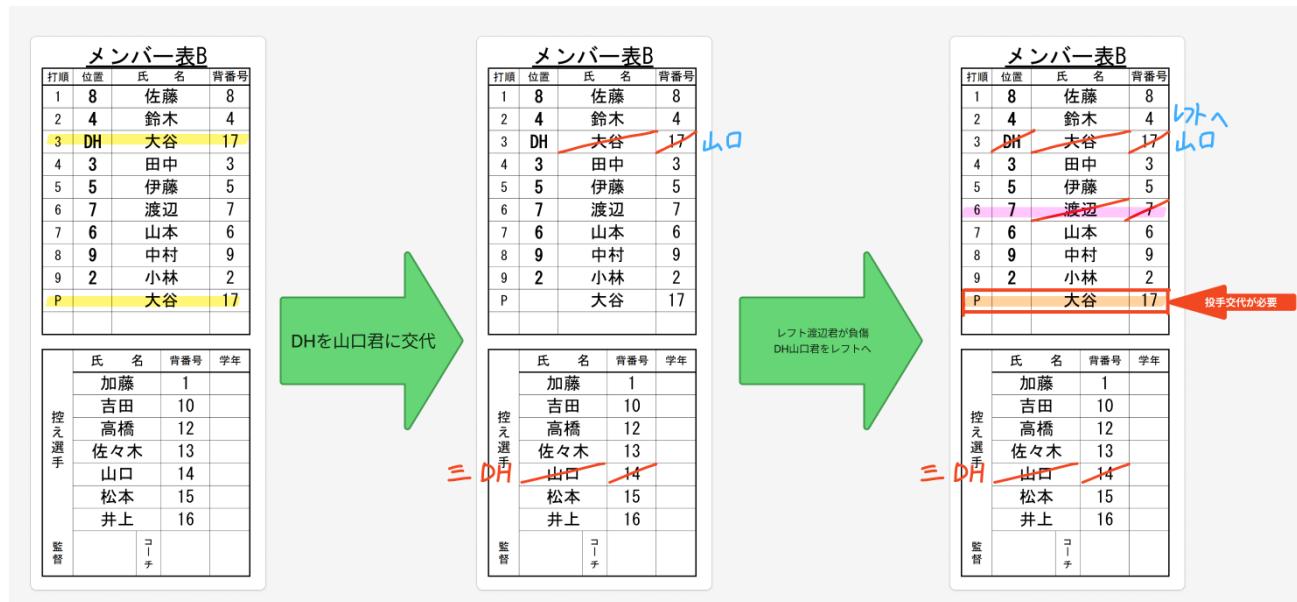


ケース④ 自動的に投手交代になる場合

【試合開始時】

【4回守備時】

【7回守備時】



【試合開始時】投手兼任DHで試合開始。

【4回守備時】3番DHを山口君に交代。

【7回守備時】6番レフト渡辺君負傷交代。DHを解除して山口君をレフトの守備へ

この場合、投手大谷君は打順6番に入ることはできない。(5.11 (b)に抵触)

よって、規則により投手交代が必要になる。

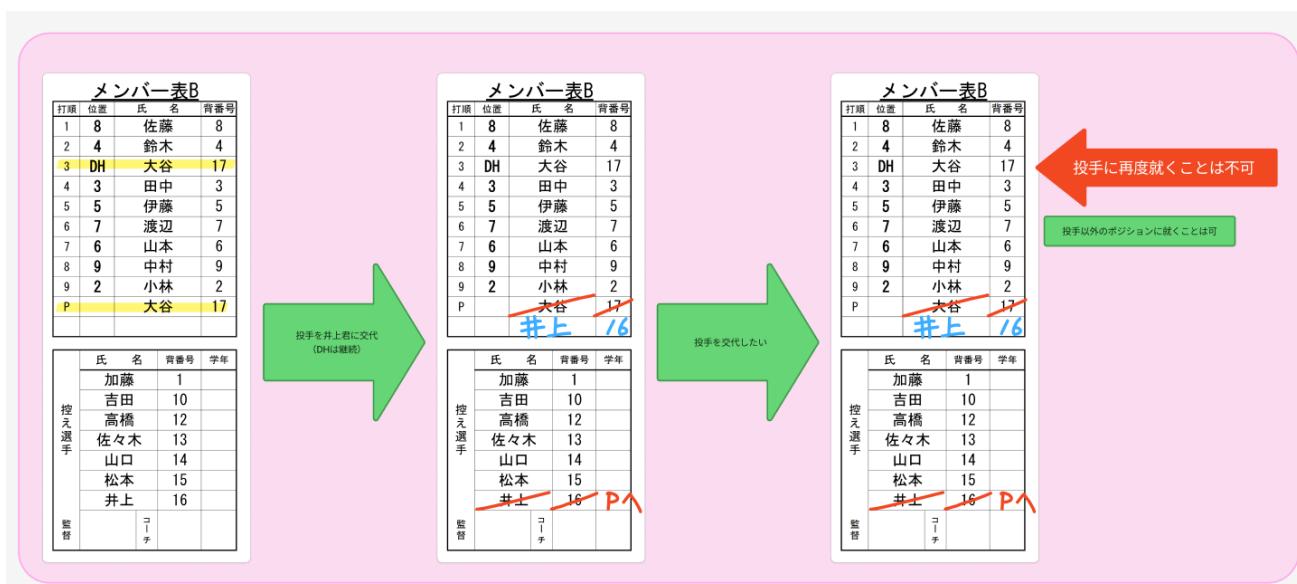
※) 少人数のチームの場合、交代選手がいない状況にならないように注意が必要

ケース⑤ 同じ役割に再度就くことはできない

【試合開始時】

【5回守備時】

【8回守備時】



【試合開始時】投手兼任DHで試合開始。

【5回守備時】投手を井上君に交代。3番DH大谷君は継続出場。

【8回守備時】投手の井上君を交代させたい場合、再度大谷君を投手に就かせることはできない。